

新「共通特論Ⅱ」：臨床腫瘍学各論
AYA 世代と希少がん（原発不明がん・骨・軟部腫瘍）

講義日：2023年12月16日（土）

講師：尾上 琢磨（兵庫県立がんセンター 腫瘍内科 医長）

要旨

がん診療において、少数派グループである「原発不明がん」「骨・軟部腫瘍」「AYA 世代」について概説する。

「原発不明がん」は適切な検索にも関わらず、原発巣が判然としない悪性腫瘍の総称で、がん全体の数%をしめる。特定のがん種に準じて治療を行えば、確かな生存改善を得られる予後良好群と、未だ標準的化学療法の確立すらなされていない予後不良群に分かれる。

「悪性骨・軟部腫瘍＝肉腫」には多くの組織型があるが、共通して言えることは、根治的局所治療の可否が予後を決める点である。加えて、化学療法高感受性の円形細胞肉腫においては、化学療法が重要な役割を果たす。一方で、一般に化学療法低感受性である非円形細胞肉腫では、化学療法の効果は限定的ではあるものの、近年新規薬剤も登場している。

「AYA 世代」は15～39歳と定義され、小児とも成人とも異なったアプローチが必要とされる。アンメットニーズが多く残されており、専門的な介入が望まれる。